

# 学校再編ニュース

《第8号》(平成25年3月11日発行)



《発行》 小樽市教育委員会(適正配置担当)  
電話 0134-32-4111(内線 533)  
FAX 0134-33-6608  
Eメール gakko-tekisei@city.otaru.lg.jp

市民の皆さんの理解と協力により学校再編を進めています

## 学校再編の状況についてお知らせします (平成24年11月28日以降)

今回は、昨年11月28日以降に開催した学校再編についての懇談会の状況や、祝津小の平成25年4月の統合に向けた「祝津小学校・高島小学校統合協議会」での協議内容、2月に挙行了した若竹小と祝津小の閉校式などについてお知らせします。

祝津小閉校式



若竹小閉校式

今月末で閉校する若竹小と祝津小の閉校式を行いました(詳しくは、6ページを御覧ください)。

学校再編ニュース及び懇談会の概要は、市のホームページに掲載しています。

小樽市 学校再編 で 検索

### 塩谷・長橋地区

塩谷・長橋地区では、中学校の再編を先行することとし、塩谷中の統合時期について話し合っています

#### 懇談会の開催状況

平成24年12月3日 塩谷小・塩谷中合同(保護者・地域)

#### ■ 教育委員会からの提案・説明内容 ■

7月23日の懇談会及び9月27日の塩谷小5・6年生保護者との懇談会での話し合いを踏まえ、塩谷中と長橋中の統合時期を平成28年4月とすることを提案しました。

#### ◆ 参加された方からの意見など ◆

【保護者から】

◆ 平成28年4月の統合は、子供たちが希望を持って塩谷中を卒業することができ、また、新しい学校づくりを並行して行うためにも妥当な時期であるとの意見や、今の小学生が中学校の進学をゆっくり考えることができるとの意見がありました。

◆ 塩谷の子供たちは、この地域に誇りを持っており、その気持ちを大切にできる学校にしてほしいとの意見や、日本だけでなく世界にも出ていくグローバルな子供に育つよう、大きな目標を立て、新しい学校づくりを進めてほしいとの意見がありました。



◆ 統合までの間、塩谷中の生徒数が少なくなると考えられるが、教員数の関係で学力に極端な差が出ないよう配慮してほしいとの意見があり、教育委員会から、教員定数は学級数に応じて決まるが、どのような配慮ができるか検討したい旨説明しました。

◆ 統合までの間に、統合校の状態を改善してほしい。また、統合校も塩谷のように、地域の方や保護者が学校に関わることで変わっていくのではないかと意見があり、皆さんがこれまで学校や地域で活動してきたことを統合校でもできるよう、教育委員会も支援していきたい旨説明しました。

【地域から】

◆ 学校再編は、子供たちのためになるということを説明してほしいとの意見があり、教育委員会から、塩谷地域は小学校、中学校ともに単学級で、9年間友達関係が固定化する状況であり、学校再編により、子供がたくさん的人数の中で切磋琢磨しながら育つことで、社会性が養われる旨説明しました。さらに、統合した小学校の事例から、複数学級となったことで、子供たちが互いに刺激を受け前向きになっていることや先生同士が授業の進め方の話し合いができるようになったこと、また、学校行事に活気が出たことなどを紹介しました。

◆ 塩谷は伊藤整の故郷であり、伊藤整という名前が語り継がれ、子供たちに夢を与えるような教育をしてほしいとの意見があり、教育委員会から、その意を受け止め、統合校に伝えたい旨説明しました。

**懇談会の開催状況**

平成24年12月13日 長橋中・長橋小・幸小合同（保護者・地域）

■ **教育委員会からの提案・説明内容** ■

■ 平成28年4月に長橋中と塩谷中を統合し、統合校の位置を長橋中とすることを説明しました。

■ 今後、統合に関係するこの地区の小中学校5校の保護者、教員、地域の代表などで構成する統合協議会を設置し、新しい学校づくりの視点で話し合っていくことを説明しました。

◆ **参加された方からの意見など** ◆

【保護者から】

◆ 塩谷地域と長橋地域の温度差を感じており、統合に関係する保護者や先生が同じスタンスに立って話し合いをしていくことが可能なのか。長橋中や長橋小、幸小の保護者や地域の方にも、自分のことという意識を持って今後の話し合いに参加してほしいとの意見があり、教育委員会から、閉校となる学校や地域の思いを受け止め、統合に関係する保護者にもその情報を提供しながら話し合っていきたいと考えている旨説明しました。



◆ 塩谷地域の一番の関心事は統合校の状態であるが、今年長橋中に入学させた親としては、これまで聞いていた話とは全然違うと実感している。間違ったイメージを払拭するために、今の落ち着いた状況をアナウンスするべきではないかと意見があり、学校長から、生徒指導にも力を入れ、状況は改善されてきており、子供たちが一生懸命やっている姿を見てほしいとの説明がありました。

◆ 統合に向けて今後3年で準備するとのことであるが、その流れについて示してほしいとの質問があり、教育委員会から、統合協議会の進め方などについて、これまでの事例を基に、部会を設置して様々な課題について協議していく考えである旨説明しました。



懇談会で、塩谷中と長橋中の学校再編については、塩谷中校区の保護者や地域の方に御理解を頂きました。教育委員会では、平成24年12月27日に開かれた教育委員会議で、「塩谷・長橋地区 塩谷中学校・長橋中学校統合実施計画」を策定し、平成28年4月に統合することを決定しました。

中央・山手地区では、小学校の再編を先行することとし、入船小、色内小の統合時期について話し合っています

懇談会の開催状況

平成24年11月30日 入船小（保護者・地域）

■ 教育委員会からの提案・説明内容 ■

- 中央・山手地区の小学校6校を3校に再編する。入船小は校区を三つに分けて、花園小、緑小・最上小統合新校、奥沢小（南小樽地区）と平成30年4月に統合する考えを提案しました。
- 校区分けは、「通学距離の平準化が図られる」「小学校と中学校の連携ができる」「安全な通学経路が確保できる」を念頭に、これから入学する児童の保護者を中心に話し合っていくことを説明しました。

◆ 参加された方からの意見など ◆

【保護者から】

- ◆ 緑小・最上小統合新校の建設場所について質問があり、教育委員会から、建設場所は市所有地で、緑小の老朽化への対応のほか、緑小と最上小の校区、さらには入船小校区の分割により、通学距離の平準化が図られる旨説明しました。
- ◆ 統合により通学距離が長くなる場合の通学支援について質問があり、教育委員会から、現行の通学支援制度を説明するとともに、通学距離の平準化が図られるよう校区を3分割すると、通学距離はおおむね1km程度となり、徒歩での通学は十分可能と考えている旨説明しました。
- ◆ 自然が豊かで市内でもこれだけ緑がある学校はない。できれば残してほしいとの意見があり、教育委員会から、市内中心部の小学校は単学級が多く、多くの子供たちが交わりながらお互いの良い面を伸ばす教育ができるよう、学校再編を進めたいと考えている旨説明しました。



懇談会の開催状況

平成24年12月17日 色内小1・2年生保護者

前回（11月9日）の色内小懇談会で、教育委員会から、色内小校区を三つに分けて、稲穂小、統合手宮小（高島・手宮地区）、長橋小（塩谷・長橋地区）と平成28年4月に統合する提案に対し、保護者から、統合の対象となる現1、2年生の保護者の意見を聞いてほしいとの要望があり、懇談会を開催しました。

◆ 参加された保護者からの意見など ◆

- ◆ 統合時にみんなが稲穂小を希望すれば、増改築しなければならないと聞いたが、今から工事をしないと間に合わないのではとの質問があり、教育委員会から、全ての児童が稲穂小を希望するとは考えていないが、希望者が多い場合は、増改築ではなく教室の転用などで対応する旨説明しました。
- ◆ 今から通学希望校の意向調査を行ってみてはどうかとの意見があり、教育委員会から、校区の設定に一定の理解を頂いた上で、通学希望校の意向を把握したいと考えている旨説明しました。
- ◆ 通学支援や街路灯の設置について質問があり、色内小校区からそれぞれの統合校までは、通学支援の対象とはならないこと、また、街路灯については、地域の方も参加する統合協議会などで話し合う必要がある旨、教育委員会から説明しました。
- ◆ 学校再編は、色内小だけでなく全市的な問題であり、子供の数が減少している中、少ない人数で勉強するリスクがある。統合した花園小の保護者からは、友達が増えて楽しいという子供の意見も聞いている。通学路、暗い道路、車、不審者など様々な心配はあるが、市、教育委員会、地域、保護者、学校が一つになって、統合協議会で話し合っていきたいとの意見がありました。
- ◆ 色内小から長橋小に行く児童が少ない場合、同じクラスにするなど配慮してほしい。また、色内小の先生を統合校に配置してほしいとの要望があり、教育委員会から、クラス編制については統合

校の校長に要望の主旨を伝えていく旨説明し、教員配置については、本年度統合した量徳小の保護者からも要望があり、統合校に配置された事例を紹介しました。

- ◆ 色内小が閉校となった場合の避難所の扱いについて質問があり、教育委員会から、市内の防災拠点については防災担当で検討しており、また、平成28年3月の閉校までは学校施設は存続し、それ以降の施設の活用について、市で考えていくこととなる旨説明しました。

※3月11日に色内小懇談会を開催しました。懇談会の状況は、次号でお知らせします。

## 南小樽地区

### 南小樽地区では、奥沢小と天神小の学校再編についての話し合いと、若竹小の平成25年4月の統合に向けた準備を進めています

#### 懇談会の開催状況

平成25年2月25日 奥沢小（保護者・地域）

#### ■ 教育委員会からの説明内容 ■

- 南小樽地区の小学校Bグループは、奥沢小と天神小を統合し、統合校の位置は奥沢小として、統合時期を平成30年4月と考えていること、また、隣接する入船小校区の一部を編入する考えであることを説明しました。

#### ◆ 参加された方からの意見など ◆

##### 【保護者から】

- ◆ 奥沢小と天神小の合同で懇談会を開催できないかとの質問があり、教育委員会から、今後の懇談会の開催方法については工夫したい旨説明しました。



##### 【地域から】

- ◆ 学校再編は、地域が主体となって行わなければならない。奥沢・天神とそれぞれの地区の問題とはせず、相手の立場に立って進めていく必要があるとの意見がありました。
- ◆ 統合時期を早めることはできないかとの質問があり、教育委員会から、校舎の施設整備など様々な要素があり、平成30年4月を一つの考え方としているが、保護者や地域の方から、もっと早い時期の統合を望む意見が多ければ、検討していく必要がある旨説明しました。
- ◆ 国や北海道は通学距離の基準を定めているか、また、通学距離が長い場合のバス通学助成について質問があり、教育委員会から、学校建設の国庫補助において、通学距離はおおむね、小学校で4km以内、中学校で6km以内としていること、また、バス通学助成は小学生の場合、自宅から学校までの通学距離が2km以上で、そのうちバス乗車が1km以上あれば、その定期代を市が負担している旨説明しました。
- ◆ 統合により校名が変わった学校があるかとの質問があり、教育委員会から、保護者や地域の方などで構成する統合協議会で、校名等の見直しを含め議論したが、結果として校名を変えた学校はなかった。各校とも新しい学校づくりに向けて、教育活動の展開や教育目標を刷新する取組を行っている旨説明しました。

##### 【学校から】

- ◆ 学校再編計画の策定当初で、向陽中は今年度6学級と想定されていたが、現在4学級、平成25年度は各学年1学級の3学級となる見込みで、子供たちの教育や教員配置などを考えると効率が悪く、中学校の再編も早めるよう要望するとの意見があり、教育委員会から、天神地区は学齢人口の減少が学校再編計画を策定した時よりも上回っており、天神地区の小学校と中学校が統合の対象となっていることについて、地域の思いも含め、真剣に議論していく必要がある旨説明しました。

## 懇談会の開催状況

平成25年2月26日 天神小（保護者・地域）

### ■ 教育委員会からの説明内容 ■

- 南小樽地区の小学校Bグループは、天神小と奥沢小を統合し、統合校の位置は奥沢小として、統合時期を平成30年4月と考えていること、また、隣接する入船小校区の一部を編入する考えであることを説明しました。

### ◆ 参加された方からの意見など ◆

#### 【保護者から】

- ◆ 統合時に特別支援学級の児童数が多くなった場合の教育環境について、見落としがないようにしてほしいとの意見があり、教育委員会から、十分対応していく旨説明しました。
- ◆ 学校再編により通学距離が長くなるため、遠い地区だけでも集団での登下校ができないかとの質問があり、教育委員会から、例えば張碓小では、通学班というグループを形成し、高学年が先導してバス停に行くなどしており、この地区についても、統合協議会などで検討していきたい旨説明しました。
- ◆ 1年生にとって、1km以上の通学距離は長いためバスを使用してもよいかとの質問があり、教育委員会から、市が行っている通学支援制度について説明しました。
- ◆ 天神地区では、小学校も中学校もなくなる可能性があるが、避難所としてどちらかを残してもらえないかとの質問があり、教育委員会から、避難所の在り方については、学校再編の進捗を踏まえ、市の防災担当が検討している旨説明しました。
- ◆ 今の天神小1年生は、1学級21人で女子が3人しかいない。統合時期は平成30年度が目途との話だが、親としては小学校の間に人間関係を勉強してほしいと考えているとの意見がありました。
- ◆ 天神小を統合校とした場合、奥沢十字街付近を花園小校区とすれば説明された通学距離の分布は変わるのではないかと、また、小学校と中学校を入れ替えるなど全体の見直しはできないかとの質問があり、今回、お示したものは決定ではなく、教育委員会としての考え方である旨説明しました。
- ◆ 奥沢小の校舎は、古くて暗く、寒い、また、体育館の床が滑り危ないと聞いているとの意見があり、教育委員会から、統合校となれば耐震工事を含め、必要な施設改修は行う考えである旨説明しました。



#### 【地域から】

- ◆ 学校が閉校した後、この地区の街づくりと学校施設の跡利用について質問があり、平成22年の懇談会では総合計画担当部署も参加し意見を聞いていること、また、昨年3月に市でまとめた「学校跡利用の基本的な考え方」について説明しました。
- ◆ 今後の進め方について質問があり、今回は、統合校の位置や統合時期について教育委員会の考え方を説明したが、学校再編は、保護者や地域の一定の理解を頂き進めることとしている。25日の奥沢小懇談会で、新しい学校づくりの観点から、奥沢・天神の合同開催の提案があり、工夫したいと考えている旨説明しました。

#### 【学校から】

- ※ 奥沢小懇談会と同じ内容の発言がありました。

## スクールバス運行の説明会

平成25年1月17日 ~ 午前・夜間の2回

若竹小保護者

これまでの話し合いを踏まえて、教育委員会から、潮見台小へのスクールバス運行の考え方と対象児童（①高速道路高架山側、②小樽築港駅海側のマンションに居住する低学年）、空き席の活用について説明しました。なお、高架山側は、高架下に信号機などが設置された場合は廃止し、築港側は、将来的には路線バスへの通学支援の切り替えや通学路の状況に応じて廃止もあり得ることについて説明しました。

祝津小の平成25年4月の統合に向けた準備を進めています

◆祝津小学校・高島小学校統合協議会◆

第3回 平成25年2月20日



◇新しい学校づくりの取組◇

保護者や地域、児童からのアンケートを基に、平成25年4月からの新しい教育目標は「ゆたかに学び ひとみかがやく たかしまの子」と決定されました。

◇通学路の見守り活動◇

新たな校区となる祝津地区からの通学について、児童と一緒にバスに乗車する中学生や地域の方に見守りの協力を頂くよう、町会の回覧版で周知を図りお願いすることとなりました。

☆ 統合協議会ニュースは市のホームページに掲載しています ☆

若竹小学校閉校式・祝津小学校閉校式を挙行

若竹小は平成25年2月9日の午前10時30分から、祝津小は2月16日の午前11時から、同校体育館で閉校式を挙行しました。

当日は、北海道教育庁後志教育局長・北海道議会議員・小樽市議会議員・



近隣のPTA 会長などの来賓をはじめ、保護者や町会、学校にゆかりのある方などが参加しました（若竹小505人、祝津小272人が参加）。

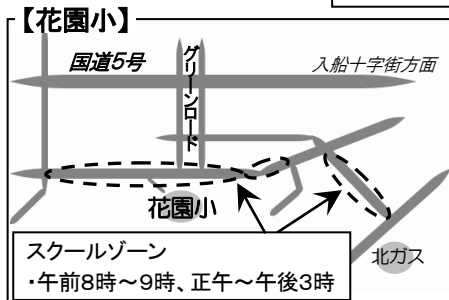
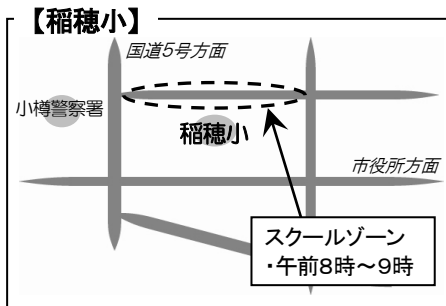
式では、学校での思い出を振り返った「児童のこぼり」や学校長から市長へ「校旗返納」が行われたほか、参加者全員で伝統ある校歌を斉唱しました。若竹小は87年、祝津小は137年の長い歴史に別れを告げ、閉校式は終了しました。



★ スクールゾーンは進入禁止です！ ★

今回は、稲穂小、花園小の指定場所をお知らせします。標記の時間帯は、許可車両以外の通行ができませんので、御注意ください。

※ 現在、スクールゾーンの時間帯の見直しについて、学校と警察で協議を進めています。



◇学校施設の耐震補強工事の状況◇

平成23・24年度の2年をかけて実施した、花園小の耐震補強工事及び大規模改修工事が完了しました。広く、きれいになった体育館で、子供たちは元気に走り回っています。

工事中の花園小  
(平成24年9月12日撮影)



↑ きれいになった体育館



← 耐震補強工事を終えた校舎

この後の状況は「学校再編ニュース(第9号)」でお知らせします